



# News Letter

国際農業機械化研究会

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3 新農林社内 電話 03-3291-5718・3674

INTERNATIONAL FARM MECHANIZATION RESEARCH SERVICE

c/o SHINNORIN-SHA, 1-12-3 KANDA NISHIKI-CHO, CHIYODA-KU, TOKYO, ZIP101-0054 JAPAN., TEL. 03-3291-5718・3674

News Letter 通巻 463号

2013. 6. 10  
毎月1回発行

発行責任者  
岸田 義典

## 目次

# 2013

- タイの農機最新事情.....2  
新農業機械実用化促進(株) 行本 修 氏
- 国別輸出入 (2013年3月).....9
- WORLD NEWS.....14
- EVENTS CALENDER.....17

# 5月号

# タイの農機最新事情

新農業機械実用化促進株  
行本 修 氏

国際農業機械化研究会は、(株)新農林社と共催で、第 463 回海外農機事情報告会を平成 25 年 5 月 24 日 (金) に開催した。講師は、新農機(株) 行本修氏。行本氏は、2012 年 11 月 26 日から 28 日にかけて開催された国際シンポジウム「Agricultural Machinery in Rice Production: A Challenge for ASEAN (米生産の農業機械化)」に参加。そのシンポジウムの情報と併せて、タイ国農業機械研究所の訪問、農家調査に基づきタイの農業機械化の現況を映像と共に報告した。

要旨は以下の通りである。

2012 年 11 月 26 日(月)～28 日(水)にタイのチェンマイにあるエンプレスコンベンションセンターにて国際シンポジウム「Agricultural Machinery in Rice Production: A Challenge for ASEAN (米生産の農業機械化)」が開催されました。今シンポジウムにおいて、日本の機械化における先端技術の講演の依頼を受け行って参りました。

そこで、①シンポジウムの情報、②タイ国農業機械化研究所への訪問について、また③農家調査(Nokornpratom 県)をしてきましたので、この 3 点に絞り、お話しします。

## シンポジウムにおける講演情報

「米の未来、世界の未来」

タイ農業協力省米生産局次長 ラダワン博士

まずはじめに、タイ農業・協同組合省米生産局次長 ラダワン博士によって基調講演「米の未来、世界の未来」がありました。

ざっと要約してみると、1. 世界の人口は増え続ける、2. アジアや世界平均では米の需要と供給バランスはとれているが、アフリカは需要が供給を上回っている、3. 化成肥料に頼らず、もっと有機・無農薬・高付加価値化をめざすべきである(タイのお米がベトナム米等の値段の安いお米に押されつつある現状を踏まえているようです)、4. タイ米の未来は、①研究開発による生産性の向上、②品種改良とその普及、③プレミアム米の奨励、④高付加価値

化(米のワイン、サイダー、酢、化粧品…)にかかっている——等でした。同様の将来見通しを語る講演者が多くいました。

「世界の米生産の持続性」

チェンマイ大学 ファウスト博士

続いて、チェンマイ大学 ファウスト博士による総会講演「世界の米生産の持続性」が行われました。

要約してみると、1. 米の生産状況(9割アジア、特に中国とインド) 2. 米生産トップ10(中国、インド、インドネシア…) 3. 米消費トップ10(中国、インド、インドネシア…) 4. 米輸入トップ10(インドネシア、ナイジェリア、イラン、バングラディシュ、EU-27…) 5. 米輸出トップ10(タイ、ベトナム、インド…) 6. 各国の米生産状況(インド、ベトナム、タイ、US、パキスタン…) ——等。

ファウスト博士をはじめ、今回のシンポジウムで多くの方が指摘していたのが、アジアの国々で毎年、ポストハーベスト段階で平均すると米の8～26%が失われている問題(FAOの研究)。これを減らすことが喫緊の課題であることです。長い目で生産状況をみていくと、供給不足になることが確実である。緑の革命も世界中に行き渡り、今後単収を増やすには、このポストハーベストロス減らすしかないといった論調がとて多かったです。

「タイの農業機械業界」

タイ農機メーカークラブ会長 ビーラチャイ氏